



みんなの家

それぞれの「豪華」が集まり、交わる場所
その出会いの中に金銭的価値を超えた時間と経験の豪華さが生まれる
「みんなの家」は豪華を通じて人がつながる空間である



団地を、みんなのリビングに

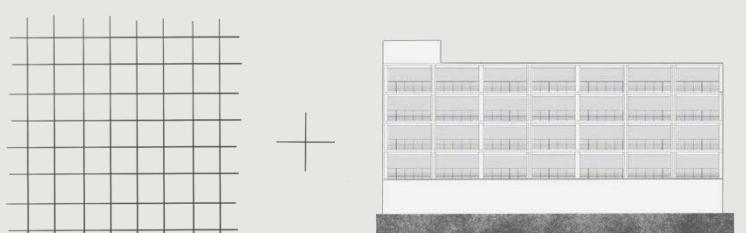
広島市中心部に位置する基町高層アパート隣接の市営住宅群を敷地として選定。2022年には基町高層アパート17号棟の建て替えが決定した。住民が趣味や日常を共有できる「みんなのリビング」を創出することで、多様な文化や世代が、この共通のフレームの中でつながり、周辺都市へと波及していく。それこそが、再生の時を迎える基町における現代の「豪華な家」の新たな姿である。

基町の特徴

多国籍・多文化 戦後復興住宅
周辺にはサッカースタジアムや広島城

基町の問題

少子高齢化 建物の老朽化 活動拠点不足
建物の老朽化 空き戸問題 外部が入りにくい
人口減少



住民が趣味や日常を共有できる「みんなのリビング」を創出



団地全体をひとつの家として捉える

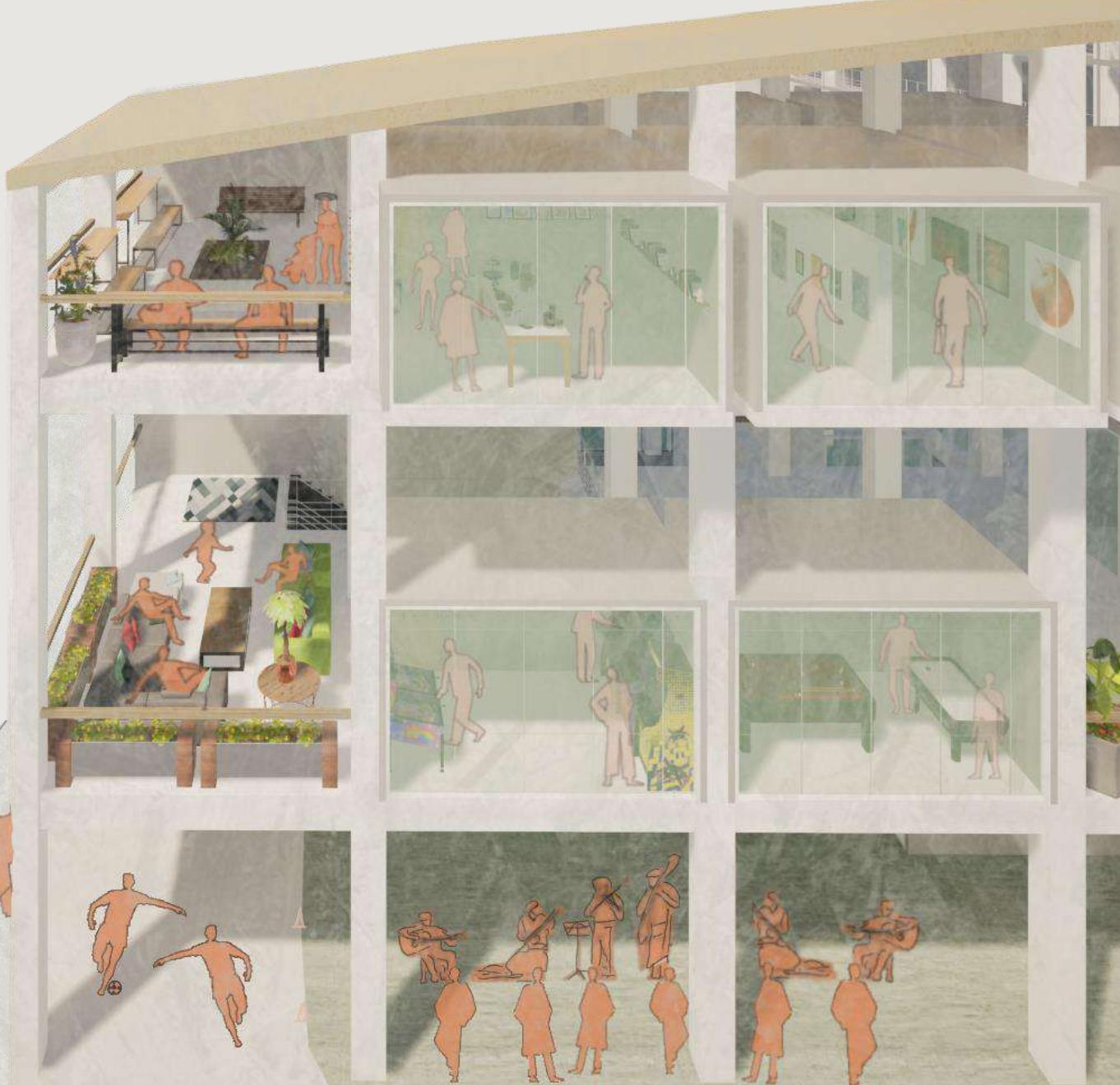
個人の住戸=個人の寝室
グリッド構造=コモンリビング、ダイニング
多様な文化や世代が、この共通のフレームの中でつながり、暮らしや活動が交わることで
コミュニティが育まる

住み開き

自宅の一部を開放する『住み開き』では、自分の好きを活用して外部の人と交流できる空間をつくり、共用リビングで趣味や展示を通じて交流を生み、人が自然に集まる関係を築くことで、少子高齢化により不足する活動拠点の改善につなげます。

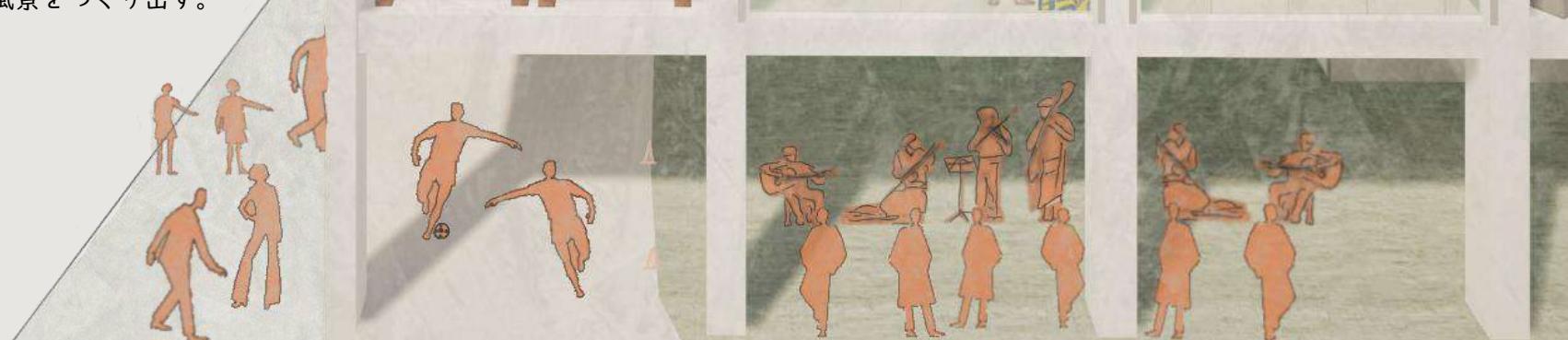
2~3階

廊下をもう一つのリビングとして位置づけ、住民がくつろぎながら緩やかに関わる空間とする。さらに個人のじむ部屋が開かれることで個の暮らししが外へとにかくみ出し、互いの活動が交わる。この二重の関係が、基町に新しいコミュニティを生み出していく。

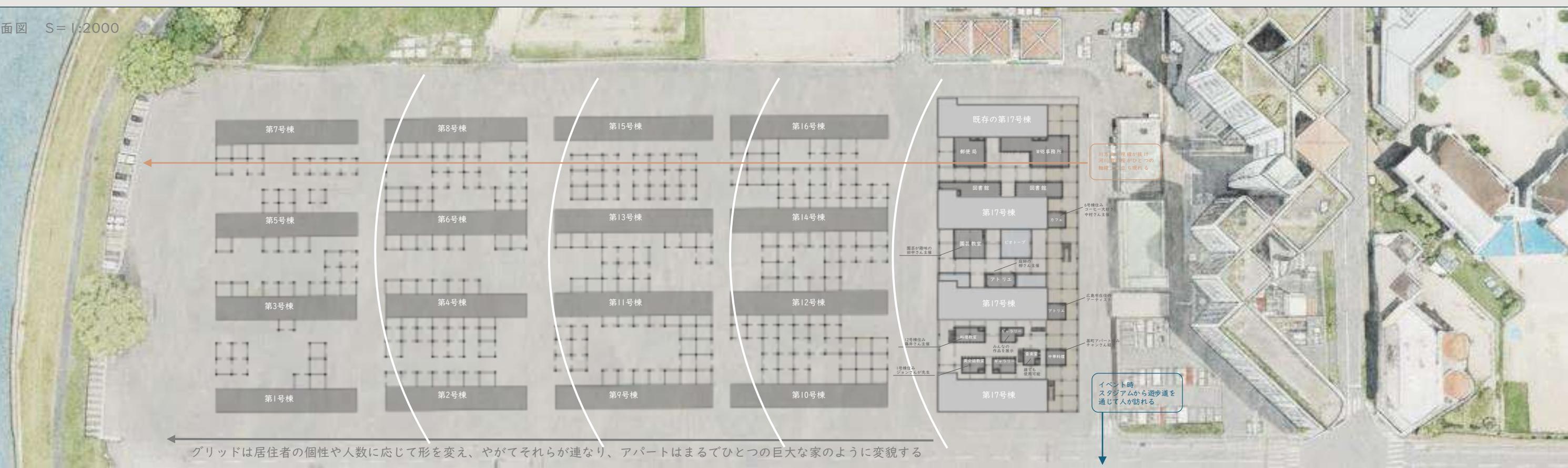


1階

広島城やピースウイングへ向かう人々と、基町アパートの住民をゆるやかにつなぐ場。外と内を隔てていた境界をやわらげ、誰もが自然に立ち寄れる風景をつくり出す。



配置図兼1F平面図 S=1/2000



グリッドは居住者の個性や人数に応じて形を変え、やがてそれらが連なり、アパートはまるでひとつの巨大な家のように変貌する